

こんにちは 新社会党です

東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3階 TEL 03-6380-9960 FAX 03-6380-9963

週刊新社会

2016年11月号

発行所：新社会党 発行者：松核佳宏
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3階
TEL 03-6380-9960 FAX 03-6380-9963
振替 00140-0-149727 1ヵ月600円 164円1部150円 41円
http://www.sinsyakai.or.jp E-mail:honbu@sinsyakai.or.jp

被爆国 日本

ビックリ! 安倍政権

核兵器禁止条約の制定に反対!?

日本こそ核兵器廃絶の先頭に立て

国連総会第一委員会(軍縮・国際安全保障)は10月27日(日本時間28日早朝)、核兵器禁止条約の制定に向けた交渉を2017年に開始することを求める決議を採択しました。決議には123カ国が賛成し、来年には条約制定の交渉に入ります。しかし、この決議には38国が反対し、驚くべきことに、日本は米国とともにこの決議に反対する暴挙にでました。

口先だけの日本と米国

全世界の核兵器数は約1万5000発。人類と地球を何回も滅亡させる大量の核兵器の廃絶を多くの国々が求めています。しかし、核抑止力を安全保障の要とする国連常任理事国の5カ国と、その同盟国は未だ核兵器の保有に固執し核兵器禁止条約の制定に反対しています。

2009年10月、米国オバマ大統領はチゴプラハの演説でノーベル平和賞を受賞し、2016年5月27日には米国大統領として初の広島訪問を実現しました。彼は「私の国のように核を保有する国々は、勇気を持って恐怖の論理から逃れ、核兵器なき世界を追求しなければならぬ」と述べました。また、大統領に同行した安倍首相は「日本と米国が力を合わせて世界の人びとに希望を生み出す灯となる」

決意を表明しました。

しかし、二人の言葉はその場限りの演説に過ぎませんでした。国連総会では日米両国は核兵器禁止条約の制定に向けた交渉開始に反対しました。

世界は核兵器廃絶の流れ

一方、アラブ諸国やメキシコ、ブラジルなど国連加盟国の多くは、核兵器の製造・実験、そして核兵器そのものの廃絶を求めています。これは決して

世界の核保有国と核弾頭数

順位	国名	核弾頭数
1位	ロシア	7300発
2位	アメリカ	6970発
3位	フランス	300発
4位	中国	260発
5位	イギリス	215発
6位	インド	130発
7位	パキスタン	120発
8位	イスラエル	80発
9位	北朝鮮	?発
合計		15375発

(16年・アメリカ科学者連盟公表データ)



止めることはできない人類の普遍的な流れです。決議採択に反対した国々は、過去の遺物である核の脅しをベースとした「核抑止力」による安全保障戦略に未だに拘泥しています。

日本は日米安保条約のもと、米国の核の傘に身を託し、「日本の安全に万全を期すためには、核を含む米国の抑止力の提供が重要」(外務省)との立場をとってきました。

世界で唯一、戦争による核攻撃とその惨禍を体験した被爆国である日本は、核兵器の廃絶の先頭に立つ責任と義務があります。

来年開かれる国連の核兵器禁止条約の制定に向けた交渉を成功裏に導きましょう。それには日本が安保・外交政策を根本的に転換することが求められています。

緊迫の沖縄・高江で 機動隊員「土人」発言

**発言を擁護し、開き直る松井大阪府知事
沖縄県民に謝罪し、機動隊を撤収しろ！**

沖縄本島北部に広がるやんばるの森を占拠する米軍北部訓練場。住民140人の東村高江に米海兵隊オスプレイの離着陸帯(ヘリパッド)建設工事が強行着工されて3カ月がたつ10月18日朝、事件が突発した。建設現場に通じるバリケードをはさんで住民・市民と本土から動員された機動隊が対峙するなか、大阪府警の若い機動隊員が暴言を吐いた。

ボケ、土人、シナ人

「触るなクソ。どこをつかんどんじやボケ。土人が「黙れこら、シナ人」暴言そのものは在日朝鮮、韓国人に対する人格否定のヘイトスピーチと同じ。だが、高江の場合は国と住民・市民の意思が衝突する場面で、国の手先が用いた。その責任は大阪府、最終的には国にある。」

一生懸命に職務を遂行

だが、松井一郎大阪府知事は当の機動隊員を擁護した。
「表現が不適切だとしても大阪府警の警官が一生懸命に命令に従い職務を遂行したのがわかりました。出張ご苦労様」
部下思いの上司と浪花節で済ませてはならない。この際、命令の可否を問うまい。それでも、知事は沖縄県民に謝罪し、機動隊を即刻引き揚げるべきだ。

現地からの手紙

■早朝5時起床、6時半には高江橋手前の集合地点に到着。総勢で、乗用車40台に60名ほどだろうか。ここが、今日の工事車両(砂利積載ダンプ)阻止線になる。工事車両通過が近いとの報を受け、車両をカギ形に車道いっぱい止め、間隙にスクラムを組んで座り込む。やがて、200名ほどの機動隊による車両撤去と座り込み排除が始まる。怒号と喧噪の中、2度のごぼう抜きをされた。

■3年前、ぼくは普天間基地大山ゲートで同じ経験をしている。しかし、そ

の時とは大きな違いがある。3年前、ごぼう抜きしたのは沖縄県警の決して若くはない警察官たちだった。今回は「本土」から派遣の警視庁機動隊、それも20歳そこそこの童顔の隊員がほとんどだった。「本土」各地から派遣されている機動隊は500名を超える。政府の意図は、地域事情や住民感情に理解のある沖縄県警ではなく、「本土」からの「外人」部隊を投入することで、工事を一気に強行しようというところだろう。高江はわずかに140名の集落。人目にほとんど触れることのない環境は、格好の新人訓練の場でもあるはずだ。

■その若い機動隊員に、オジイ、オバアが沖縄戦体験を語りかける。熟年世代が、占領期体験を語りかける。「沖縄の歴史、基地問題をどのように学んできたの?」「こんな仕事をするために警察官になったの?」「お父さん、お母さんに誇れる仕事?」。

童顔の隊員たちは、目を合わせることも言葉を交わすこともなく、ただひたすら任務に就く。彼らの精神が病み、壊れることはないか。この政権の2重3重の非情さを感じる。

(M)



新社会

お問い合わせ先